

## 【目的】

狩野川では、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく減災のための取組方針をとりまとめ、**平成32年度を目途にハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進している。**

この取組方針のフォローアップを通じて、今回の委員会においては、関係機関間で**出水に備えた取組の推進と連携強化を図るとともに、取組方針の柱である「防災教育推進」に関し、意見交換を行った。**

## 【開催概要】

日時：平成29年6月5日(月) 10:00～11:40

会場：プラサ ヴェルデ コンベンションホールA

出席：伊豆の国市長、沼津市長、三島市長、函南町長、伊豆市防災監、  
長泉町地域防災課課長、清水町くらし安全課課長補佐、静岡県東部危機管理局長、  
静岡県沼津土木事務所次長、静岡地方気象台長、沼津河川国道事務所長

議事 ○「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく狩野川流域の取組状況について  
○沼津河川国道事務所の事業紹介  
○「新たなステージ」に対応した防災気象情報の改善について





意見交換：テーマ「**防災・河川環境教育**」に関する取組について







## 【主な発言内容】

- ・伊豆の国市長：昨年、長岡南小で河川の防災について授業を行った。副読本を使った教育にも取り組んでいる。狩野川放水路の見学も行っている。
- ・沼津市長：防災・河川環境教育について、試行授業が行われており、児童だけでなく、教員等の関係者も非常に勉強になった。継続が重要である。
- ・三島市長：今年度モデル校の長伏小での取組を期待している。避難指示、避難勧告の発令を出すのが難しいが、市民への周知・啓発は重要である。
- ・函南町長：函南町「道の駅・川の駅」を活用し、防災と河川利用の学習の場としていきたい。
- ・伊豆市防災監：水防法改正に伴い、勉強会等を開催する予定であり、水防に関する様々な活動を行っていきたい。
- ・長泉町地域防災課長：子供が関心を持っており、防災・河川環境教育の取組は効果的である。今後も関係機関と連携して取り組んでいきたい。
- ・清水町くらし安全課長補佐：要配慮者施設で避難訓練を実施した。その他の施設でも有事に対応出来るよう、今後も訓練を充実していきたい。
- ・東部危機管理局長：防災教育の重要性が高まっており、特に近年、学校教育が担う重要性が大きくなっている。今後は、高校を中心に行っている防災講座に風水害の内容も取り入れていきたい。
- ・沼津土木事務所 次長：防災・河川環境教育について出前講座を行ってきたが、今後は国土交通省の取組にも参加させてもらい、必要な情報を提供していきたい。
- ・静岡地方気象台長：学校教育は子供達だけでなく、保護者や地域住民の生命を守ったことが東北の事例で確認されている。学校教育の重要性を再認識し、今後も引き続き取り組んでいきたい。
- ・沼津河川国道事務所長：学校教育についても、関係機関と連携していきたい。現場を見てもらうことも重要であり、放水路の見学には積極的に協力していきたい。

# 防災・河川環境教育に関する委員からの発言(平成29年度狩野川水防災協議会)




発言者	発言内容
 <p>沼津市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本協議会を通じ昨年度モデル校に選定された市立第三小学校において、4年生3クラスの児童87名に対して、5時限の日程で試行授業が行われた。</li> <li>・第三小学校は私が出た学校。海岸堤防や河川堤防に守られた、海拔3メートルに満たない地区に立地しており、そのような中で、水害をテーマにした授業は、目新しく興味を引くものであったことがアンケート結果から伺え、児童のみならず、教員・保護者等にとっても水害に対する認識を改める大変良い機会になったという印象を受けた。</li> <li>・従来の出前講座などのように一時的なものでなく、教員による正式な授業であったことが、効果を高めた要因の一つだと思う。本市のモデル校となった第三小学校では、この授業が定着しつつあり、本年度も昨年度と同様の授業を継続して実施していく。</li> <li>・本市の狩野川沿川の残る6つの小学校についても、市内の社会科教員で組織する社会化研究会を通じ、展開を図っていく。</li> </ul>
 <p>三島市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での授業、大変すばらしいことをやっていると拝聴した。</li> <li>・本年度は、三島市の長伏小学校がモデル校になるということで、その効果を期待したい。</li> <li>・先日の水防演習では、長伏小学校、中郷西中学校は、児童あるいは生徒が頑張っていて活動し、水防に対する意識もかなり高まってきた。</li> <li>・三島市の場合は今までは命を守るということで地震の方に力を入れてきたが、水防について、大場川や狩野川に接している地域に対する教育は大変大事であると認識している。</li> </ul>
 <p>伊豆の国市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、小学生3年・4年生向けの副読本を作り、それを使って狩野川のことを子供たちに学習してもらっている。</li> <li>・国交省のご協力をいただき、長岡南小4年生を対象に授業の中で河川の防災教育を4回行った。</li> <li>・小中学生に教えて関心を持ってもらう、住民防災意識の向上が最も大切だと認識している。</li> </ul>
 <p>函南町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・函南町「道の駅・川の駅」には交通安全、観光、地域活性化、防災機能が付与されており、有事の際の防災拠点になり得るため、函南町「道の駅・川の駅」を活用し、防災と河川利用の学習の場としていきたいと考えている。</li> <li>・水辺空間を利用して交流空間をつくる、かわまちづくり事業の機能の一つであり、地域に「にぎわいを生み出す親水空間」としての利活用として、子どもから大人まで環境学習や体験学習の場として活用し、防災教育も含めた形で運用を図っていきたい。</li> </ul>

# 防災・河川環境教育に関する委員からの発言(平成29年度狩野川水防災協議会)

発言者	発言内容
 <p>伊豆市防災監 公太郎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊坂小のモデル授業を継続計画するように連携していきたい。</li> <li>・水防法改正に伴い、住民を対象に危険を認識するための勉強会等を開催する予定であり、様々な活動を行っていききたいと考えている。</li> </ul>
 <p>長泉町地域防災課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当町南小学校をモデル校として、防災・河川環境教育の推進ができることを、深く感謝。</li> <li>・当町の水防災に関しては、黄瀬川、桃沢川、梅ノ木沢川、3河川があり、子供たちにとって身近な河川をテーマ・題材とすることで、より興味を持って取り組んでもらえるのではないかという風に感じている。</li> <li>・当町としても、児童・生徒に対して防災教育を実施していくことについては、安全な町づくり、防災・減災につながる重要な施策であるという風に認識している。</li> <li>・今後も、関係機関と連携をし、積極的に取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul>
 <p>清水町くらし安全課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、狩野川防災・河川環境教育を実施するための準備を進めており、モデル校として、狩野川に最も近い南小学校で行う。この学校を選定した理由については、狩野川に大変近いことや、平成19年9月6日の台風9号において、狩野川堤防からの越水の危険性が高まったことにより、徳倉地区に避難勧告を発令している経緯からである。</li> <li>・今年度、この学校をモデル校として、過去の資料や写真を収集した中で教材を作成し、完成後は他校の授業も利用し、防災教育を進めていきたいと考えている。</li> </ul>
 <p>東部危機管理局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識の向上や防災教育は非常に重要なことだと思う。</li> <li>・地域コミュニティの活性化が必要だが、なかなか活性化が進まない、特に若い年代の参加率が落ちている現状がある。</li> <li>・こうしたことから、防災教育や防災意識の向上には、学校教育の重要性が今後ますます高まってくると考えている。</li> <li>・東部危機管理局には、教育委員会との併任ということで高校の先生が1人配属されており、その高校の先生が中心となって管内の高校を中心とした学校に防災講座ということで年間70回ほどの講座、防災に関する説明や、あるいは実習というものを行っている。その内容が、静岡県の場合どうしても地震が中心になってしまうが最近のゲリラ豪雨、広島や鬼怒川、岩泉などを見ていると、風水害に対するリスクというのは非常に高まっていると考えられるので、今後はこうした風水害に対する教育も防災講座の中に取り入れていきたいと考えている。</li> </ul>



# 防災・河川環境教育に関する委員からの発言(平成29年度狩野川水防災協議会)

発言者	発言内容
 <p>沼津土木事務所次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災、河川環境教育に関して、これまで流域の小学校に対して出前講座等をやってきた。</li> <li>・県としても河川の流域というのは1つであり、管理者が県であったり国であったり分かれているが、一体となってやっていく必要があると思うので、ぜひ国交省の取り組みに参画をして、県として持っている情報があれば提供させていただきたいと考えている。</li> <li>・今年度、沼川新放水路の工事にいよいよ着手するので、こういったことをきっかけとし、流域の小学校や中学校を対象として、出前講座等をぜひ積極的に進めていきたいと考えている。</li> </ul>
 <p>静岡地方気象台長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校でやられた試行授業の効果として、保護者へのアンケートというのがあり、児童だけではなく保護者の防災意識の向上にも貢献したと聞いている。学校教育の重要性というのを再認識した。</li> <li>・東北地方太平洋沖地震の際に、釜石の小中学校で従来から津波の防災教育をやられていて、結果として、大震災があったときに、小中学生の犠牲者が非常に少なく、釜石の奇跡とも言われている。</li> <li>・学校教育でこういった水防災の教育をすることについても、小学校あるいは中学校の、生徒自身の命を守るだけではなく、保護者あるいは地域の住民の方への波及効果があると、改めて認識した。</li> <li>・今後とも非常に重要なことと捉え、取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul>
 <p>沼津河川国道事務所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狩野川水防災協議会の取組方針の柱の一つに「防災教育推進」を位置付けている。また、次期学習指導要領で河川学習の要素が増加することもふまえ、国土交通省としては地域に即した「防災・河川環境教育」を支援する必要があると考えている。</li> <li>・防災意識の向上を図るためには、小さいうちから、小学生、中学生のうちに色々と現場を見ていただくことも大事であり、放水路の見学等を希望される場合は、ご連絡頂ければ対応させて頂きたいと考えている。</li> </ul>